

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 今週の注目材料 = 議会証言でパウエル議長はどのような姿勢を示すか

2022年6月20日

注目された14日、15日の米連邦公開市場委員会(FOMC)は、直前になって市場が織り込みを進めた75BP (0.75%)の利上げを決定。政策金利であるFF金利は1.50%-1.75%となりました。0.75%の引き上げは1994年11月以来となります。次回7月のFOMCについても、0.5%もしくは0.75%の利上げを行う可能性が高いとして、大幅利上げを続ける意向を示しています。

同時に発表されたFOMCメンバーによる経済見通し(SEP)では、年末時点での政策金利水準の見通しの中央値を3.25%-3.50%としました。前回3月のSEPでは1.75%-2.00%となっていたので、大きな上方修正です。来年末については3.50%-3.75%と3.75%-4.00%以上が拮抗している状況。こちらをピークに2024年は利下げに回るという見通しです。3月時点ではかなり見通しが分かれる中2.50%-2.75%以下と2.75%-3.00%以上が拮抗という状況で、2024年も同水準という見通しでしたので、ピークの金利も大きく引き上げられた形です。

こうした見通しの変化の背景には、止まらない米国の物価高傾向があります。10日に発表された5月の米消費者物価指数は前年比8.6%と予想に反して前回、前々回を超え、直近で最も高い伸びに。3月ごろに物価がピークアウトという期待が後退しました。今回のSEPを見ても、今年年末時点での物価見通しは、インフレーターターゲットの対象であるPCEデフレータの前年比で5.2%、同コア前年比で4.3%と、3月時点での4.3%、4.1%から大きく上昇しています。3月に6.6%、6.2%をつけた同指標。年末までには少し低下も、ターゲットである2.0%には程遠い状況とみられ、市場の引き締め期待に繋がっています。

なおSEPにおける今年のGDP見通しは+1.7%、来年も+1.7%と3月時点での2.8%、2.2%から大きく下方修正されました。利上げによる景気の鈍化も懸念されるところですが、物価高による消費の減退への警戒感があるだけに、こうしたGDPの鈍化見通しを受けても引き締め見通しが継続しています。

今回示された年末時点での政策金利見通しの中央値に届くには後1.75%の利上げが必要で、年内のFOMCは後4回ですから、7月に0.75%の利上げを行った場合でも、9月以降あと一回は0.5%の大幅利上げが必要となります。比較的慎重な姿勢を見せることが多かったFRBですが、かなり積極的な姿勢に転じたという印象です。

こうした中、22日に上院銀行委員会、23日に下院金融サービス委員会において、パウエル議長による半期議会証言が行われます。ハンフリー・ホーキングズ法 (すでに失効済みとなっているが、慣例としてつづいているもの) によりFRB議長が半期に一度、米国の議会に金融政策報告書(通称：ハンフリー・ホーキングズ報告書)を提出し、両院で議会証言を行うものです。日銀総裁が国会で頻繁に答弁している日本と違い、米FRB議長が議会に登場する機会は、この半期議会証言と、パンデミック対応を受けてのCERES法に基づく証言しかありません。その為、この半期議会証言は今後のFRBの姿勢を確認する為にかなり重要なイベントとなります。

議長が議会証言という公式の場で今後の金融引き締め姿勢を強調するようだと、米長

期金利の上昇、米株の下落の傾向がさらに強まる可能性があります。ある程度は織り込みが進んでいるとはいえ、年内に3.5%、来年には4.0%にも届こうかという金利水準は、米国内の株式・不動産などの市場はもちろん、世界的にもお金の大きな流れを引き起こしていくと見られます。議長はある程度の株安などを許容しても物価を抑え込もうという意思があるようにも見えますが、こうした議長の姿勢がどこまでのものか。今回の議会証言はかなりの注目を集めそうです。

なお、証言テキストが同じということもあり、先に行われる方に注目が集まりますので、今回は上院（年二回の証言で前後を入れ替える）での証言に注目が集まりますが、質疑応答などを通じて、下院の証言で相場が動く場合がありますので要注意。今年は中間選挙があり、下院議員の全員、上院の約1/3は11月の選挙を控えているだけに、こうしたアピールの場で厳しい質問が飛ぶことが期待されます。

#### 山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。